

彦根愛知犬上地域新ごみ処理施設建設に係る  
説明会概要（稲枝北・稲枝東学区）

日 時	令和元年 5 月 25 日（土）午前 10 時 00 分～午前 12 時 00 分
場 所	稲枝地区公民館 大集会室
参 加 者	75 名
	稲枝北学区 40 名（男性 37 名、女性 3 名）
	稲枝東学区 17 名（男性 17 名、女性 0 名）
	その他 8 名（男性 8 名、女性 0 名）
	彦根愛知犬上広域行政組合 大久保管理者（彦根市長）
	事務局 神細工事務局長、建設推進室（杉山室長、宮川主幹、山本副主幹、大久保副主幹、宮寄主任）、総務課（中江課長、荒木主任）
コンサル業者	パシフィックコンサルタンツ株式会社 大阪本社 資源循環室（枝澤副室長、山崎技師）
次 第	1 開会 2 挨拶 (1) 大久保管理者 3 内容 (1) 資料に基づき説明（これまでの経緯、施設の概要について） (2) 質疑応答

挨拶	
（事務局）	（あいさつ・出席者紹介）
（管理者）	（あいさつ）
資料に基づき説明	
（事務局）	引き続きまして、計画中の施設等について事務局より説明を始めさせていただきます。
（事務局）	（資料説明）
質疑応答	
（事務局）	ご意見、ご質問のある方は挙手をお願いいたします。
（住民 1）	<p>●年の自治会長をしております下石寺町の●●です。よろしくをお願いいたします。5 分ほど時間を頂戴して頂きたいと申します。</p> <p>28 年度の懇談会におきまして 8 月ごろ聞いて参ったのですが、行政のほうでも内容等、入ってこない状況の中で、元市会議員の●●さんの資料に基づいて話を進めてまいりました。甲崎町では自治会長、上西川町では自治会長、薩摩町では自治会長、そして副自治会長、改良組合関係、下岡部は自治会長、稲里でも自治会長、下石寺では私、そして副自治会長が意見交換をしながら 2 回ほど、10 月と 11 月にやってきました。</p>

そういう中で、行政組合のほう、行政と密接な関係でありながら、私どもは応募締め切りにも何も公開されないという状況の中でいろんな心配事、不安材料の意見交換をしてみました。先ほど資料の中にもありましたように、子どもの通学路及び農道のほとんどで、この人たち、農業をする人たちは危険にさらされるという内容とか、下石寺では額戸川という川が流れておりまして、そこでは魚のゆりかご水田として付加価値をつけております。また下西川の農地に対しまして、優良農地でありながら地域の他町の篤農家たちが、間隔がよくなって栽培しておられるというところ。上のほうには稲里町、稲部町、金田町、各自治会におきましては上からの交通量、下からの排煙等も心配される意見等が出ておりました。彦根梨のほうでは大きさの比率としまして、アサギリ、アサノヤマダ彦根。荒神山が盾となり、温度差が生じておいしいブランドとして出回っている状態でございます。書き切れないほどの意見交換をしてみましたけれども、下西川の手の挙げたところにおきましては、何らメリッ的な意見はございませんでした。それがここら辺で10月と11月と2回にわたりまして意見交換をしております。

そうした中で、話し合いの中で周辺住民の理解と協力のもと、計画を進めるよう要請書を出そうという事で取り組んで賛成がまとまってまいりました。ご存じだとは思いますが、町長には自治会長として平成29年の1月23日に今言いました要請書を出しております。内容につきましては、候補地とされる近隣の自治体からは、子どもの通学路もあり、優良農地とされる地域が、彦根が打ち出している彦根梨に隣接していること、また土地改良された広大な美田が候補地となっていることなどについて、計画段階で十分な住民説明を行うとともに、地域に配慮した周辺環境対策を講じる必要があるということで、強く要請しますという内容です。そうした内容におきまして、下石寺は、下西川自治会長あてに要望を出しております。

そうした中、私ども直接自治会長名で管理組合、また市長宛、下西川町自治会長宛に出しております。薩摩町、甲崎、下石、上西、多数の署名の中で請願を出しておられるところでした。

そうした中で、そのように下西川町の農地に対して、誰が耕作していくのかということで、地図におとしてみいました。その下西川町の領土というか、というところにおいて、他町からも篤農家が田んぼを拡大し、綺麗にしておられるのが実態であって、下西川町においては篤農家が大多数の農地を綺麗にしておられるというところの中でございます。以上、結構長く喋ってまいりましたが、稲枝というよりも、滋賀で優良農地においてこんなことが許されるのかと思うことで、周りの集落の同意、要望というか、不安材料を消すための材料を整えてもらいたいと思っています。以上です。

(事務局) ありがとうございます。今のは、ご意見ということで回答のほうはよろしいですか。

(住民1) 回答というよりは、平成28年にこうした流れの中で、今言いました近隣の9町が集まって会議をした中での要望なり要請でございますので、それを踏まえてよろしく願いいたしますということです。

(事務局) ありがとうございます。

(住民2) 田原町の●●です。ごみ焼却場建設の問題については、昔から彦根には喫緊の課題である。こんなことで、二十数年前から、1番目は正法寺、野田山、それから今説明されたようなところを回ってきた経緯があります。

聞きたいのは、何で建設場所がまず先にありきなのか。そういう方向でなぜ進むのかというのが聞きたいなと思っています。

とにかく1億か2億でできるような施設ではありませんね。今説明を聞いていると140～150トンの毎日の焼却トン数、こう言われているのですよね。大体トン1億円の施設が要ると言われているのが施設整備でよく言われてきた内容だと思うのです。これは、今日は説明会、一定限定された範囲で公表もされて、こういう説明会を聞いているわけですが、150億という規模に仮になれば、彦根が市立病院を作ったときと変わらない。市立病院が167億ぐらいでしたからね。僕、記憶しているから。そういう莫大な病院ですよ。市立病院ですよ。そんな金を使うというのは、単なる関係の市町村だけで決められるような内容ではない。ましてや焼却場という市民全般が使う。こういう問題を市民が考えないでごみを減らせるわけがないと思うのです。二十数年前に8種分別だったかな。行政が、職員600人ぐらいが各自治会、彦根市の250ぐらいある自治会に出向いていろいろ説明して今のごみ収集方法が作られました。そういうことをきちんとやらんとあかん。今どうですか。年間12億円ぐらい使っているじゃないですか。市民一人当たりにして1万円ほど金がかかっているのですよ。これ、減らすという前提なしに、今の説明を聞いていたのでは、皆さん150トンぐらい、いってしまうわ。下手すれば二十数年前のように何でも燃やせる施設。1回目の野田山で言っていたときには役場に作る、こう言ったんですよ。何でも燃やせる施設を作ります。これね、行政にとっては都合のいい話かもしれないけれども、市民にとっては大変心配、プラスがマイナスなの。そういった意味では絶対にそんなことをしてはならん。先進地では、今どうですか、ごみの収集の内訳を見れば、生ごみがいっぱいあるじゃないです。これを上手に再資源化して、畜産と、また米、玄米から出る米糠や糠、こういうものをブレンドして肥料化しています。こういうこともやって、効率のいい仕事やとしますということを図らなあかんの、初めからこの議案なしに、こういう提案というのは、私は大変危険だと。

それと、この業界、焼却炉メーカーというのは談合が有名な4社があります。これを何の警戒もなく、その先のことを考えてやるということは、私はやめてほしいし、まずはごみを減らすという議論をもう一遍やってほしい。何でこういう管理者が決めて、竹原が蹴飛ばされて、それで白紙で。そんななし崩しで説明会をするというのは、ひどいことはやめてほしいなとこう思います。根本に立ち返ってほしい、意見として言うときます。何で今日こういうことやったのかだけは知っておいてください。

(事務局) ありがとうございます。ほか、ご質問、ご意見はございますでしょうか。

(住民3) 下石寺町の●●と申します。2点お聞きしたいと思うのですが、同じく石寺の方から要望があったと思うのですが、あれは地元と周辺集落、周辺自治会が集まって反对方針で要望書を出したと。なぜかといいますと、周辺自治会は全くその話を聞いていなかったということで、これは総合的に駄目だということで反対決議して、各町各自治会から要望書と同じものを出しているというような地域であります。

もう一点聞きたいのは、竹原に決定された。それが駄目になった。その原因が、私の知る限りにおいては周辺自治会、周辺地域が反対だというのが1つあったと聞いているのですが、周辺の1集落、1自治会が手を挙げるということをされて、再度募集されて、周辺が反対して潰れた話の中で、同じやり方でやられていると。やはり次の場所にしましても、

周辺自治会が意見なり合意あって、その地区の応募というのならわかるのですが、全体にどうですかという話は、ちょっとやり方がおかしいのではないかなと私は思います。

もう1点は、西川地域に関しましては、さっき出ましたけれども、基本的に農振地域であります。公共事業の施設を建てるのに一定期間農地改良から期間が空けばできないことはないと思いますが、基本的には農振自体は原則守っていくものというのが私は思うのと、もう1つは作っておられる方。自治会の方が作られておるわけではありません。それぞれ認定農家の方がしっかりとしておられるのだと思いますけれども、彼らがこの10年先の農業経営を考えて農業をやっておられるのですから、その辺を踏まえて場所というものは考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(管理者)

ありがとうございました。周辺地域の同意に関しては、応募いただくときに、周辺地域の同意をお願いしたらどうかという意見はあったのですが、そうすると応募していただくところがないかもわからないということになりました。建設に当たって重要なことは、三津海瀬がそうだったわけですが、地権者の方々の同意がまず必要。そこからスタートしないと全く話が進まないということになりまして、周辺の方々とのご意見交換は、応募地を決めてから我々行政組合が出向きましてさせていただこう、こういうことに段取りをいたしました。今日がその周辺地域の皆様との懇談ということになるわけです。

今までの経緯というのも伺っておりますし、竹原地区に決定をしたことを白紙に戻す。1つの地域ではなくて、複数選ぶということは、周辺の反対があったということ、これは議員の皆さんはそういうことも斟酌されたのかもわかりません。しかし一番重要なことは、議会の同意が得られない状況になったということ。それはさまざまな理由があると思います。

ただ、今回、そもそも5つの応募地の中で優先順位を決めて順々に当たっていくということ想定していたわけですが、1つの候補地を決めたけれども、それが議会において納得性がないとおっしゃっていただいたので、複数同時に、同じ土俵に乗っていただいて手続きを進めようということにしたわけでございます。ですから、今日こうしてお集まりいただいている皆さん方からさまざまなご意見をいただいて、それを参考にしながら最終的に決定していきたいと思っております。

(住民4)

今説明がありました竹原の件ですが、議会の同意が得られなかった、さまざまな理由があると思いますけれども言われましたが、そのさまざまな理由は何であったか明らかにされないと、残る3カ所も同じような羽目に遭うのではないかと思います。どうしておられますか。

(管理者)

選定委員会の選定結果というのは順位を決めて答申をするということでありました。最初に当たってくださいねとおっしゃったのが下西川です。下西川町で優先順位が1番となったわけですが、選定委員会で検討していただいた内容をもとに、私どもでその内容をさらに深掘りして検討をいたしました。

1つの要素としまして、農業振興地域ということもあって、いわゆる農業委員会からもご意見をいただいているということが1つある。さらにあの場所、下西川の地先がかつて石寺で断念をしたときの、あれは内湖ですが、今度の下西川の地先というのは内湖の端ですので石寺の用地よりも地盤はしっかりしているだろうということはあると思いますが、1.5kmぐらいの距離ですので、相当地盤改良にお金がかかるだろうという試算もいただきました。

これはボーリングしたわけではないので、そこは確定的なことは申し上げることはできませんが、石寺で試算をされたのが地盤改良で 22 億という数字がありましたので、相当かかるのではないかと。今事務局では近隣の公共事業で得たデータを改めて取り直して検討していきたいと思っていますが。そういうコストと地代、それと優先順位 2 番でありました竹原との比較をしたときに、竹原のほうが最初のイニシャルコスト、初期投資は安いということのデータをもとに管理者会で協議をしたということでもあります。その辺のことは私どもがまず整理をさせていただいて、管理者会でお示しをさせていただいたというところがございます。それにおいて、ほかの町長さんたちも同意をいただいたという経緯がございます。

その説明をいたしましたら、議員の皆様方はそれに対しては納得性がない、こういうお話でありました。これがずっと平行線で来たわけですが、いよいよ議会において議決をいただけないという事態になりましたので、一旦皆さんを公募地としてさらに検討するという段階に移ったということがございます。

(住民 5) 農業委員会から意見書を出しているのですが、稲枝の農業の状況について皆さんにご理解をいただきたいと思います。今農業は大変高齢化、また農家が減少している状況であります。そうした中で、どう農村と農地を守るかということで、農業委員会は一生懸命取り組んでいるわけですが、幸いにしてこの稲枝地域には 50 年前に受委託組合ができました。これは全国で初めて経営委託をする組織として発足したんです。その組織が先輩方のお力で今でも存在しています。そんなことで稲枝地域では大きな農家、また小さな農家を含めまして農地を守るために一生懸命努力されてきた経緯があります。

また全国的に見ても、稲枝地域は大変先進的な取り組みをしています。1 つは農地をどう集約して作りやすい農地に切り替えていくのか。また経営も小さい農家も含めまして共同作業するなり、また 1 つの法人を作るなりして規模も大きくなってきていますし、コストをどう下げるかという取り組みも現在行われています。そういう意味では、農業を進める、また農地を守り、農村を守るための努力は、農家とともにやられてきた地域であります。しかし、今回選定されている西川なり清崎なり、竹原についても、そういうふうな歴史的な農業の構造、あるいはこれからどう農業を育てるのか、農村を育てるのかという議論が全然されないままに、集落としては農業を諦めようじゃないかというところからスタートした議論がされているように気がかりでなりません。とりわけ今自治会では農家、農業のことについて知らないというのか、サラリーマンの方がされている方が多いので、どうしても農業の課題については後回しになっているのが現実です。そういうことを考えると、それぞれの集落単位で立候補されているのはよくわかるのですが、その集落だけでその地域全体、稲枝全体の農業のことが考えられて立候補されているのか、非常に疑問を持っています。そういう意味では、今回のこういう選定の仕方については大きな疑問を持ちましたので、農業委員会としても優良農地のど真ん中にこういう施設を作ることの疑義について意見書を出させていただきました。

特に農業委員会としては、もしそういうものを作るのであれば、優良農地ではないところに作ってほしいというのが第 1 点です。

2 つ目は、優良農地に作る場合においては、特に代替性がないのかどうか。隣の土地、あるいはもう少し優良農地の中でも作れるというところに持っていくべきではないかと思

います。ちょうど今候補地になっている西川地域については、先ほどもありましたように、それぞれ農家同士、あるいは地権者と協議しながら1つの集落として農地として守っている地域であります。そういうところはできるだけ避けていただきたいと思います。2つ目に、今後稲枝あるいは彦根の農業振興をどのようにしていくのかという観点から、このごみ処理施設をどこに持っていくかということを含めて検討していただきたいと思います。農業のことについてはこの説明書には一切書いていません。なぜ書いていないのか。この農村地域を作るのに、今後、例えば風評被害が出る、あるいはダイオキシンについても少ないと言われてはいますが、もし出たらどういった対応をするのかということが一切出ていない。こういうことでは農業をしている者にとっては非常に心配であります。原子力発電所が大変な事故になりました。今でもまだ神話で原子力は安全、安全と言われての方もおられますが、こういったことにならないように一つ今回のごみ処理施設については十分な検討を進めながら、単に7月に決定しなければならないという期限切れではなしに、住民あるいは農家、地域、自治会それぞれが納得する方法で十分議論をして時間をかけて決定していただきたいということをお願いしておきたいと思います。以上です。

(住民6) すいません。彦富です。非常に基本的なところで、一問一答でパッパッと3つほどお聞かせください。

今回のこの説明会の位置づけがまずわかっていないんです。先ほどスケジュールのほうで7月、8月で決めて、その後、行政組合のほうの議会でというスケジュール感をおっしゃいました。それを踏まえて今回の今日の説明会が管理者会さんの中でどのような位置づけになっていて、なぜ4カ所をぐるぐるとされるのか。そもそも論ですが、もう一度、私、聞き逃したのかわからないので、まずお願いします。

(事務局) 事務局から説明させていただきます。本日の住民説明会の位置づけですが、4つの候補地に対しまして本日を一番初回としまして、最終6月9日が6回目ということで、これはグリーンピアで開催させていただきますが、今日は稲枝東小学校区対象の方、西清崎に隣接する稲里町の皆様がおられますので、東小学区の皆様にもお見えいただいていることとなりますが、グリーンピアのほうでもまた開催させていただきますのは亀山学区であったり、城陽学区であったり、若葉小学区の住民の方を対象にさせていただいておりますが、前回竹原区を決定させていただいたときといいますのは、決定されるまで非公開、皆さんもご存じのことかと思うのですが、応募地を非公開でずっと進めておまして、竹原区に決定させていただいた後も竹原区以外の応募地は非公開とさせていただいております。非公開で進めさせていただいたことから、竹原区の周辺の住民の皆様は竹原区に決定してから、初めて自分たちの住む地域にごみ処理施設が来るかもしれないということを知られまして、決定されるまで何も行政からそういった話がなかったことに対しまして、やはり行政に対する不信感を持っていただくことになりました。それもありまして、今現在も竹原区周辺では建設を反対される看板を設置されている状況が続いておりますが、やはり決定される段階で初めて知ることに対しまして、周りの住民の皆様はそれまで気持ちの持ちようもなかったということで、反対をされるというような状況になってしまったというような経験もございました。今回再選定するに当たりましては、まだ1つに候補地を決定していない段階で、それぞれの候補地周辺の住民の皆様が自分の暮らしていく地域の

一部にごみ処理施設が来るということを知った上で、それがどういった施設であるか、環境に影響があるものなのかどうかということも知っていただく。また、皆様に最終建設候補地を1つに絞った段階でも住民説明会をさせていただく際には、本日説明させていただいたような内容も考慮いただいて、皆様のご理解をいただけるようにと考えております。本日初めて聞かれた内容につきまして、皆様がどういったご意見、ごみ処理施設に対するイメージ、また迷惑施設というイメージがやはりあるかと思っておりますので、そういったところに皆様がどのようなご意見を持たれているかということも確認させていただきながら、近年のごみ処理施設というのは、説明でもさせていただいたとおり熱回収をさせていただくような施設になりますので、周辺の住民様にも地域振興策としても利用できるような施設になるように、また環境学習施設も併設するような形で未来を担う子どもたちが学習できるような施設というのも考えております。そういったことも皆様に知っていただいた上で、最終候補地が1カ所に決まった際には、再度詳細なことも説明させていただきますが、皆様にご理解を求めていくということに対しまして、本日は先にまず決定される前に、皆様のご意見を頂戴したいということで開催させていただいております。

(住民6) 長い答弁だったのですが、もう一度確認ですが、管理者会の中での位置づけは、とりあえず4つのところをやりなさいということで合意があってやられているのでしょうか。

(事務局) はい。管理者会で4つの候補地でやらせていただくということになっております。

(住民6) 次の質問ですが、前回の技術的な評価、公開もされています。そのような評価をそのまま使うということですね。

(事務局) 施設整備基本計画(案)で基本的なところはすべて4つの候補地で同じものやっています。

(住民6) 先ほどの説明の最中で少し言いかけて、今検討中だと言われたのですが、該当する自治会の周辺自治会に対するインセンティブというか、その辺のことを考えられているようなことを言われかけましたが、具体的にはどういうことを考えられているのでしょうか。まだ決まっていなくても、一応案としてお聞きしたいのですが。

(事務局) まだ額としても決まっておりませんが、当初の3億円のやらせていただく事業でまちづくり地域振興策、まちづくりプランを出していただくような形、同じような形で、額はまだ決まっておりませんが、考えておりますので、そういった形になろうかと思っております。

(住民6) 追加で聞くのですが、該当町は3億円ですが、周辺自治会に対して何らかの資金供与を考えられているのでしょうか。

(事務局) 各隣接する自治会様にするのか、学区とさせていただくのかということまでまだ詰められておりませんが、周辺で組織を立ち上げていただくというようなことも考えられますが、そこで出していただくまちづくりプランに対しまして地域活性化、例えば地域清掃活動への支援であったり、世代間の交流事業の支援であったり、また公民館の整備であったりということになりますが、その額の限度額内で、地域で作られるまちづくりプランに沿った補助という形を検討しております。

(住民6) 最後ですが、説明会が始まる前に後ろにプロモーションビデオをされていました。その中で排熱利用の案として温水プールみたいなのが上映されていましたが、これは何らかの意図があつてされたのですか。今彦根では県立のあったプールがなくなった状態の中で、そ

のビデオを出すということは、そういうことの建設の可能性も踏まえて示されているのでしょうか。

(事務局) そういうわけではなくて、県内で最近作られた施設で熱利用として、こういった熱利用がわかりやすい VTR というのが、近江八幡市様がお持ちだということで、これも You-Tube から取れるような形で出されて、滋賀県が出されているものがありましたので、それを利用させていただいた次第でございます。施設利用としてはそのほかにもいろいろあると考えております。

(住民6) 排熱利用で、中圧以下、低圧まで蒸気圧が下がっても十分に、例えば農業関係だったら十分使えると思いますので、ご検討をよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

(事務局) ありがとうございます。ほか何かございますでしょうか。

(住民7) 西肥田町です。5月11日に全彦根の自治会長さんの自治会長会議、その席上で初めてごみ施設に関わる学習会をやるということ、受付のところで資料としてお渡しをしていただきました。確かに資料の資料ですが、しかしそれまで2週間しかないわけです。なおかつ今日の案内には、いろいろ言い訳はしてはりますが、稲枝で言ったら北学区と東学区だけが対象である。西学区は書いていないという状況でした。今日の受付を見ましても、東学区、北学区、甲崎はありました。これが言ったら西学区は言い方が悪いけれど、継子扱いというか、非常に敷居が高くなるようなことを自らやっておられるという印象を持ちます。昔は、稲枝は1つという言葉がありますが、何でわざわざ東、北と西とに区別をしたかのようなことをされるのですか。本当に意見を聞くという姿勢であれば、全学区、稲枝であれば3つの学区全部が対象ですということをきちんとすべきだったと思います。

併せて、11日の説明会のところで大久保市長は、6月でしたか、市民にアンケートをしようとおっしゃっていましたが、そのアンケートについて具体化はまだできていないかもしれませんが、どのようなイメージを考えておられるのかぜひお聞かせ願ひたいと思います。

(事務局) 本日は稲枝東小学区様と北小学校区様ということで、冒頭で申しましたように候補地のある自治会に隣接する自治会様の属する小学校区ということで対象とさせていただいたわけですが、すべてにできればいいのですが、会場の都合とかもございまして、なかなか難しいということで、最初は隣接する自治会様だけを対象にしようというふうには考えてはいたのですが、小学校区様までは対象を広げさせていただきました。

5月11日のチラシでしかご案内させていただけなかったのですが、これも今年は5月の冒頭に大型のゴールデンウィークがございまして、各市町の広報誌の締め切りが、白紙に戻させていただくという記者会見をした後、既に過ぎていたということもあり、広報誌でのお知らせも、させていただけなくて、自治会長様にはご迷惑をおかけしまして大変申し訳ございませんでした。ただ、自治会長様にはご協力いただきまして、本日はたくさんの方にお見えいただいたことは感謝しております。ありがとうございます。

アンケートにつきましては、既に発送するまでの準備はできておまして、内容というのは全般的なごみ処理施設に対する市民の皆様のイメージを聞く内容であったり、今度新たに建てるごみ処理施設でどういったことを配慮すべきか、皆さんが期待される場所をお聞きするようなものでありまして、候補地4つのここがいいとか、この場所がいいとか、人気投票というような形になるものではございません。1市4町の住民の皆様にお聞きさせていただきますので、候補地に上がっていない多賀町、甲良町、豊郷町の住民の方から

も新しいごみ処理施設、現在のごみ処理施設に求めるものはどういったものであるかというのを聞きして、今度新しく新たに1つの建設候補地を選定していくに当たりましてそれも、検討材料の1つにさせていただくことになろうかと考えております。また手元にアンケートが届きましたら、自由記述のところもございますので、ご意見等をいただけたらと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(事務局) よろしいでしょうか。他に何か。

(住民8) 甲崎町です。ちょっと重なりますが、今日はこれ住民説明会でよろしいですか。説明会資料となっておりますが。先ほど申されたように、自治会長会、この間の彦根市全体のやつ、パンフレット1枚いただきましたけど。住民説明会はパンフレット1枚で終わりですか、スタートは。これ、住民にたくさん集まっていたいただきましたと今おっしゃいましたけど、たくさんですか。北学区全部でこんだけです。

(事務局) チラシ1枚でのお知らせとなってことにつきましては、時間的なこともあって大変申し訳なかった次第ではございますが、しかもそれを回覧いただきたいということをお願いするというようなやり方をさせていただきまして、それぞれの自治会長様にはご迷惑をおかけしたところでございます。

人数としまして、本日お集まりいただいた人数というのは我々も想定は、もう少し来ていただけるのかなと思っておりましてし、イベント等も重なってしまっているということもお聞きしましたので、もう少し日程調整をさせていただいたらよかったですけど、その辺もできなかったことに対しましてお詫びしたいと思います。

(住民8) これで住民説明ができたという結果になるわけですね。今農業のことを一生懸命みんなやっています。この緑、今日見てもらったら、植えてくれはった田んぼ、これから金色に変わります。ごみ処理、大切なのですよ。私らも出していますごみを。どうしたらいいか、もっとみんなで考えましょう。賛成も反対も今の段階では私は何も言いません。私は何も言えませんが、まだ無知です。ただ、これでスタートして、稲枝北学区、そして東学区の方に住民説明が終わったというのはあまりにもねえ。これは何とかしてください、この辺を。住民をもっと。大事なごみ処理場やさかいに、必要なのですよ。それで、作らなあかんのはわかりますけど、そこへ行くまでの道のりをきちんとしとかんと、後世に今後残すのは間違いないですよ。紙切れ一枚、時間がなかった、ゴールデンウィークやら旅行行かんらん。そんな馬鹿なことないでしょう、こんな大事な時に。ですから、そこをうまく押さえて、住民のみんな一人一人に紙切れ一枚で、自治会長さん、回覧してくれると思っていました。そんな馬鹿なこと、うちの町内では全戸に全配布しました。コピーして。それぐらい思うのですよ、私らレベルでも。皆さんここにいらっしゃる方、一生懸命、前の6人さんのお顔を見ながら何を言ってくれるだろうと期待しています。そこをもっと感じてください。この稲枝を。石寺、昔はあそこ、洪水があったところですよ。今、上のほうの治水がだいぶよくなりましたから宇曾川が切れて、水がついて、想定外でしたと言うのですか。そこまで今日話が何も出てこなかったです。水の、ちゃんと環境設備、ダイオキシンはどう。わかりますよ。最後の最後は想定外で終わるのです。防災で琵琶湖に津波がどうこうという話もあるぐらいです。そういうことも含めて何で話が出てこんのかなと。

住民軽視はやめて、もっとみんなにわかりやすいように説明会を、これで1回終わったと

いうことは絶対なし。アンケートを取りました。市民全部にアンケートを取りまして、皆さんの意見を聞きました。それで終わらないようにしていただきたい。市長、よろしいか。

(事務局)

下石寺町の●●でございます。

(住民9)

ちょうど稲枝地域全体、東、西、北全体が愛西土地改良区のエリアでございまして、稲枝地域全体が彦根市から見ますと完全な農業振興地域です。その農業振興地域である理由の1つは、ほとんどが基盤整備されておりまして、基盤整備率92%でございます。これで一応完成ということになっています。その結果、どんどんと農業が振興されまして、認定農家もたくさんできました。最近では法人もいくつかできてまいりました。大きなそういう認定農家、農業法人が稲枝地域全体の農業を守っていこう、こういうスタイルで進んできております。

稲枝地域全体の優良な農業振興地域のだ真ん中に今回そういう話が湧いてきたわけですが、農業振興地域というのは非常に多面的な要素をたくさん持っていて、子どもの情操教育とか、あるいは風景、人間は風景によって、荒神山の緑を背景にして人の心が癒される。そこに住んでいる人たち全体がその風景を心から楽しんでいる、こういう場所でございます。今回その場所のだ真ん中に、応募をされた下西川町さんがどういう気持ちで、どういう理由で、何が原因で応募されたのか、ご承知だったら教えていただきたい。以上です。

(住民10)

下西川の●●でございます。なぜ応募したかと言われましたが、下石寺、上石寺の方は10年か15年前、曾根沼のところで処理場する。その時分にちょうど私は下西川の自治会長をさせてもらっておりました。それはよろしいわ、賛成してやりなさいと私はそのときの自治会長さんに言いました。今になって、さんざん迷惑、そんな石寺はそういう在所ですか。え？

そういう意味の、今の返事をしてくれということやさかい。それで、西川で、今これ、希望してきておりますのは、農業委員会の方から指摘がありました。農村地区、百姓ということとは土地持ち農家をほったらかして、ただ買うてくれへんかったら買わない。作れ言ったら作らない言うて、それをよく知って、税金で補助金で生きているところでございませう。今現在やってはる方、そんなひどいことを言うのじゃなしに、それがあかんのなら、西川町全部戻してもらって、元のように戻してもらって、花畑にしているほうがマシですわ。百姓、農地のことを考えたことがありますか。何一つ考えてもくれへん。何か言うて、反対、反対。石寺の稲里町の真ん中で、一番端です。一番いいところです。真ん中と違います、今言われた方。

それで、農業委員会でなしに、まちづくり会をやってはる、それでいろいろな今の説明をしいやせんと、自治会長さんが1年1年代わって、合意してられるのか知らんけど、何でもかんでも反対。共産党の方のような言い方ばかりであります。

それで、今日の説明会は、下西川としては近隣に対しては役所のほうで話を全部つけますから、そのことは考えてくれるなということで、われらは希望を出したんです。それに、先に説明会をしているのは、後にするほうがよかった、今のを聞いているとな。後に。どこかまだ決まってもないのに、やいやいやいや言うて。そんなおかしな事してるのがおかしい。そんな、ほんまに農業をやられる方、自分はいいけれど、買うてやるというのな

らわかるけれど、そうも買わへん。それで、こんなことになれば、ほんまに花畑にしていたほうがマシですわ。10年、20年たったら、もう自分の田がどこにあるかわかんようになってしまうと、放棄してしまうと言うて、みんなが言うてはるのです。農業委員会の方、今、そんなことで将来どうなるか。過疎化になるばかりです。それで、税金で、補助金もらって、税金で作ってきているけど、ありがたいの一言もあらへん。まだちょっとでも補助金が取れへんかと。補助金を取るのが仕事ですわ。そういう、農業もやってやる方ばかりですわ。

(事務局) ありがとうございます。他の方。

(住民 11) 上西川町です。先ほど●●様から質問がありましたように、ごみ処理施設、それから周辺の道路整備に関わりまして、一体いくらの事業総額がかかるのでしょうか、教えてください。

(事務局) 基本的に施設の建設だけですと、今の試算では約200億となっております。それに加えて、道路整備、場所によっていろいろと変わってきますので、そのあたりは最終的な候補地となるところによって額が変わってくることになります。少しでも建設費を総額が安く抑えられるところということで以前も検討されていたということになります。

(住民 12) ありがとうございます。時間がなくて端的にお願いしたいと思います。次の質問ですが、彦根市は世界登録遺産とか、国体が来ることにより陸上競技場とか、体育センターの整備など、大型事業が控えている中で、新ごみ処理施設のお金をどこから捻出されようとしてきているのかお答えください。要するに税金が増えますか。

(事務局) 建設費200億がすべて各市町から、1市4町からというわけではなくて、そこから交付金であったり、起債を張ることによって交付税措置が受けられますので、彦根市の負担となる部分については——建設費についても国体が終わってからになりますが、またこれから見直しがかかってくるといいますか、全国的にも建設費が高騰しているのがオリンピックであったり、大阪の万博であったりというところもございますので、そのあたりは上がっているというところでの試算になっているということでございます。

(住民 12) ありがとうございます。最後に、7ページの地域振興策、いろいろ参考例が書かれているのですが、地域清掃、文化祭、世代間交流事業、公民館整備、防災倉庫、防災備品の整備、公園整備など、これらは新ごみ処理施設の建設とは別に十分予算立てして進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(事務局) ありがとうございます。まだまだご意見、ご質問があろうかと思うのですが、時間が過ぎていきますので、お一人かお二人ほどお受けして。

(住民 13) パッカー車の搬入・搬出ですが、さっき1日何台と言われましたか。

(住民) 120台。

(事務局) 一般車両と合わせて400台程度。

(住民 13) 1日に400台出入りするわけですか。

(事務局) 彦根市の一般車両がかなり多いということです。

(住民) 1日1回行くだけでですか。何往復する、交通量を言ってください。

(事務局) それで400台。往復で言いますと800台です。

(住民) 120台が1回行くだけでですか。

(事務局) 120台分通るということです。延べです。

(住民 14) 下西川町の●●といます。いろいろご意見等、大事な意見が出たと思いますが、私のほうから要望ということで、先ほど上西川町の方もおっしゃられたのですが、周辺地域への支援というところをもっと周辺、北学区、稲枝というご意見もいただいておりますので、ぜひ周辺、どこまでか、隣接地ではなくて、北学区全体、それから稲枝全体のために周辺への振興策を取っていただきたい。特にそれに対する予算立てもいろいろあると思いますので、候補地の3億円を少し削ってでも周辺地域のほうへお金を回すということでぜひ考えていただきたいと思います。以上です。

(事務局) ありがとうございます。皆様よろしいでしょうか。最後お一人。

(住民 15) 甲崎町でございます。いろんなことを考えられて、最終的に竹原地区が平成 29 年に決定したのですね。先ほど市長がおっしゃったように、当初は下西川町のほうが第1候補になっていたのだけれども、いろいろ考えた上で竹原になったと言われました。そういうことを考えていくと、今回4つの候補地が立候補されているのですが、同じように考えていって、本当に最終的に決まるのかなど。そしてまた周辺地域の方にも説明会を開いていくということは、押さえ込みにかかるということなのか。それを考えると、8ページの今後のスケジュール、たった1年で決められるのかなど。1年で決められるということの前にも既に5つのところを選定するに当たっていろいろ調査をされたのではないかと。にもかかわらず、また補正予算を組んでいろいろな調査をする。これはどういうことなのだろうか。何や一体というのが、私の気持ちです。

説明会は一体何やというご意見もありましたけれども、例えば立候補されたところが一生懸命に、どうしてうちの自治会はここを候補地として立候補したのかという熱い気持ちを例えば語っていただいて、そんなことだったら周辺も頑張って応援しようやないかと。そういう会であつたらもっと本物になるのではないかなど。今まで一生懸命何やかや調査をして決めてかかって竹原になったのに、それがもろもろの理由でおじゃんになった。じゃあ今回も同じことが考えられるのではないかと、そういう心配をしています。以上です。

(事務局) ありがとうございます。そうしましたら、お時間を過ぎております。また後日にでもご意見、ご質問等がございましたら、配布しました資料に建設推進室の連絡先も書いておりますので、こちらにご連絡いただければと思います。

本日の新ごみ処理施設建設に係る説明会を終了させていただくに当たりまして、事務局長の神細工からご挨拶申し上げます。

(住民 5) 管理者から最後のまとめをしてもらわんとあかん。

(管理者) 大変貴重なご意見をいただきましてまことにありがとうございます。

当初からご説明させていただきましたとおりに、私ども管理者会で判断した基準というのが議会の皆様にとってみれば十分ではないと。我々はコスト計算とか、そういう重点的な要素で判断をしたわけですが、候補地として竹原に決定後、さまざまなご説明もさせていただきましたが、議員の皆様方からはコストだけではない、収集運搬であるとか、周辺のご理解の度合いだとか、そういうものも要素として改めて決定をし直すということになりました。

したがって、私どもは今日、こうして聞かせていただいたご意見も踏まえて最終的な判断をさせていただくということにはなりますが、まだ時間がございますので、それぞれのお立場でも直接私どもにご意見を頂戴することがあれば幸いです。他の地域でも私

の在所にでもそれぞれ回覧をしていただいて、グリーンピアでやろうと、こういう話になっていますので、地域の方々からもまたご意見をいただけたと思います。そうしたものを総合的に、最終的には協議をさせていただいて、議会とも相談をして決定をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(事務局)

今ほどの管理者からの言葉で閉会の挨拶と代えさせていただきたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。

以上